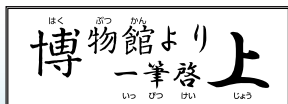


☎487-2332



博物館で行う企画展などイベントの最新情報は博物館ホームページまたはFacebookで紹介しています。また臨時休館になる際もFacebookにて随時お知らせをしていますのでぜひご活用ください。
(高)

巡回移動展「出張!!室内バードウォッチ」開催中

2月より鳥類のはく製と生き物の写真を中心とした移動展を開催しています。写真資料コーナーでは、国の指定天然記念物のシジミチョウである「カラフトルリシジミ」の生態写真を大きなパネルにして展示しています。3月30日(月)が最終日となっていますので、ぜひお近くの会場でご覧ください。

【3月の予定】

3月3日(火)～9日(月)	磯分内酪農センター
3月10日(火)～16日(月)	茶安別公民館
3月17日(火)～23日(月)	阿歴内公民館
3月24日(火)～30日(月)	塘路公民館

※観覧は無料です。



安田の記録は極めて乏しく、これまではほぼ触れられたことがありません。生没年や氏名の読み仮名を確認できる資料、写真などもありません。明治21年に有栖川宮威仁親王の欧州訪問の際に随行したことが「官報」に記されており、この時、陸軍騎兵中尉となっています。このことから江戸後期ころに生まれたと考えられます。

道東における軍馬補充部の発足は、明治33年の釧路支部設置により始まりましたが、明治38年の日露戦争以降、ばん馬や騎兵馬の必要性が軍部内で高まり、軍馬補充部の増強が進みました。この影響を受けて、明治40年10月に川上支部が設置されました。なぜ標茶だったのか、明確に記した記録は見つかっていません。旭川にあった陸軍第七師団への軍馬供給を担っている、白糠の軍馬補充部釧路支部の増強が目的であったという点から、標茶は白糠と距離が近く、集治監廃止後も使用できる120棟近くの建物があつたこと、放牧地として使えるような広大な土地があつたことなどが理由として考えられます。大正元年9月の「殖民広報」には当時の川上支部について「創設に伴う職員16人、常置人夫50人は奥羽(東北地方)出身者が多い。季節に応じて雇用される臨時職員は、多い時で1日200人に達した」と書かれています。今回は川上支部創設期に初代支部長として赴任した、安田徐次郎をご紹介します。

北海道集治監釧路分監は標茶に近代的な市街地の形成をもたらすなど、標茶の歴史において極めて重要な存在でした。しかし、明治34年に網走へ移転すると、標茶の人口は最盛期の10分の1にまで落ち込んでしまいました。集治監は標茶に主産業を根付かせることはできなかったのです。現在につながる畜産業を生み出す大きな原動力となつたのは、軍馬補充部川上支部でした。軍馬補充部は構内で仔馬の種付けをせず、民間から買い入れを行っていたため、馬産業が大きく発展しました。軍馬補充部が標茶になければ、今の町の姿は大きく変わっていたことでしょう。

標茶に生きた人々の中には、伝記のような形で記録され、歴史にその名を残した方がいます。そんな人々の人生の物語をご紹介します。

軍馬補充部川上支部 初代支部長 安田 徐次郎

ぶなび

標茶近世・近代人物誌 第4話

いきもの発見日和

File.1 オオワシ
発見日 令和2年2月上旬



オオワシは黄色い立派なくちばしと、黒と白の体のコントラストが目を引く大型の猛禽類です。同じく大型の猛禽類であるオジロワシとよく似ていますが、オジロワシは体の色が若干茶色に見え、くちばしもオオワシほど黄色くはないです。また、飛んでいる時の尾の形がオオワシとオジロワシでは違います。

この日発見したオオワシは見晴らしのよさそうな大木の上で首をせわしなく動かしながら、キョロキョロと周辺をうかがっていました。本町でオオワシが見られるのは冬の間だけです。

第2回企画展 「縄文の脚つき土器と うるし塗り櫛の世界」

3月22日(日)まで好評開催中

1階企画展示室には150点の貴重な遺物を展示しています。見学は無料です。ぜひお越しください。



注目の展示資料

うるし塗りの櫛

このくしは、鶴居村下幌呂1遺跡の縄文時代後期中葉（約3000年前）の竪穴住居より出土しました。くしの歯は残っていませんが、11本あったことは分かっています。漆の樹液が数回塗り重ねられています。

明治41年、軍馬補充部川上支部の整備が本格化すると、他地方からたくさんの人々が移り住み、標茶の人口は前年の529人から950人へと急増しました。安田は創成期の川上支部で、整備を行うとともに、明治41年8月より軍馬育成を開始しました。明治43年ごろまで支部長として標茶に勤務した安田ですが、その後については分かっています。年齢的にも50代だったと考えられ、川上支部を最後に退官したのかもかもしれません。

参考文献

「官報」第七三〇〇號・第七三一五號
『日本陸軍将官辞典』平成13年発行 福川秀樹 著



大正12年の陸地測量部図
(大坂山やアヤマケ原が記載される)

翌年の明治22年には、陸軍乗馬学校教官として、フランス騎兵学校教頭セルハルド著「癖馬調教書（日本語訳版）」の発行に際し、校正という形で携わりました。その後、明治37～38年ごろには陸軍少佐となり、第十師団騎兵第十連隊長として日露戦争へ従軍します。明治38年7月には騎兵第二十連隊が新設され、陸軍中佐となった安田は隊長として赴任しました。連隊は、臨時動員された第十六師団に編入され中国の大連に向かいましたが、戦いがほぼ終結していたこともあり、戦闘に加わることなく日露戦争は終戦を迎えます。安田は満州の警備にあたった後、明治40年に大阪へ帰国しました。このように安田は騎兵隊出身で教導経験を持ち、連隊指揮も行った経験豊かな陸軍将校だったようです。その経験を買われ、新設される川上支部長として標茶に赴任したのでしょう。

安田が赴任する直前、軍馬補充部本部長の大蔵平三中将、同部の山室朝光技師、釧路支部長の坂野金策少佐が標茶の軍馬補充部用地内を視察しています。その際、標茶の木下堅三氏が案内を務めました。この時、多和付近のアヤマケが花盛りだったため、辺り一帯を「アヤマケ原」と名付けています。また、付近一番の高原を調査し、その場所をそれぞれの頭文字である、大蔵の大、坂野の坂、山室の山から「大坂山」と名付けました。この地名は現在も残っており、地図にも記載されています。木下氏は、安田と購買官と共に標茶へ軍馬の地方購買へ随行了したことを思い出して語っています。

道東ホースタウンプロジェクトのホームページをリニューアルしました

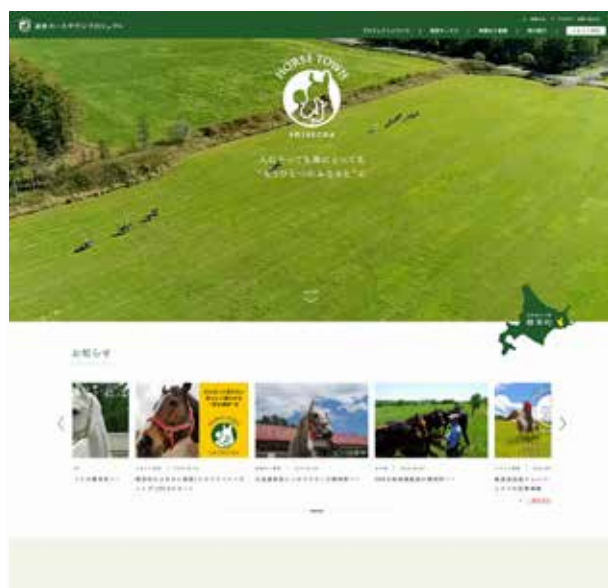
「馬を核とした地域づくり」に官民連携で取り組む道東ホースタウンプロジェクト。昨年は、牧場まつり多和平カントリーフェスタⅡや標茶町産業まつりなどで、町の皆さんと馬たちとのふれ合いや乗馬体験の取り組みも行いました。

この度、ホームページをリニューアルしました。今後もさまざまな取り組みを進め、ホームページで紹介していきますので、標茶町の皆さんにも是非ご覧いただき、応援していただければと思います。



地域おこし協力隊
岡本 昌

ホームページ・リニューアルのポイント



ホームページアドレス <https://dotohorsetown.jp/>



トップページは変更せず、道東の自然の中でのホーストレッキング風景の美しい動画です。



「お知らせ」「プロジェクトについて」「乗馬サービス」「馬預かり事業」「馬の紹介」「ふるさと納税」と各コーナーのページを分け、内容が分かりやすく見やすい構成になりました。

お知らせ

新しいお知らせを写真と共に表示。クリックすると詳細内容が見られます。

プロジェクトについて

プロジェクトが目指すことや活動の全体像を分かりやすく紹介しています。



ふるさと納税

ふるさと納税の呼びかけと共に、標茶町の紹介もしています。



標茶町の紹介

秋冬の景色写真がとても美しいです。



Facebookもよろしくお願いします! <https://www.facebook.com/horsetown.hokkaido/>

